

東京都ハング・パラグライディング連盟（都連）が、南関東統括組織を分割する形で発足したのが、1993年です。今年でもう23年にもなるんですね。日本の動力飛行が初めて行われてから、106年になるそうなのですが、日本でハンググライダーの活動が始まってから40年が経過し、航空界の一員としては、いつのまにか新参者の未熟さを許してもらえざる時期は過ぎたようです。先日議員立法による「小型無人機等飛行禁止法」（通称）が成立し、ハング・パラの飛行も警察によって取り締まれる根拠が、日本に初めて登場しました。違反すれば「懲役1年以下・罰金50万円以下」の刑があなたを待っている世界になったのです。都連としても、継続して「どんな飛行禁止」が課せられていくのか、情報収集に努めますので、不安のある方は問い合わせてください。

先日、国土交通省の航空スポーツ担当の課長とお話がありました。右記の議員立法による法律の規制内容については、航空行政管轄の国土交通省でも一切口出しのできない制度で動くという事でした。何年も説明をしてきて、ハング・パラに理解を深めていただいた後ろ盾が効かないという事になります。7月くらい（施行から3か月程度）までに、何が起きていくか、より一層の注意が必要です。

さて、今年の都連総会では役員の選任議事があります。都連独自の活動と言えば、この都連レポートに記事を載せたようないくつかの行事があり、またJHFの活動にも積極的に関与しています。都連の正会員は、都連に対しても会費を払っていただいた方に限っているのですが、それは最も在住フライヤー会員数が多い都道府県連盟として、運営のための対策となっています。推薦を都連から受ける立場の人くらいしか、この会費を払っていないのが現状ですが、今これを読んでいるあなたには、会費を払って、役員への投票を実施いただきたい。そして、ついでにあなた自身も役員となって一緒に活動しましょう。どうぞ、よろしくお願いいたします。

理事長 内田孝也

今年度の体験会の実績

2015年4月11日、12日、世田谷区出雲小学校近くの多摩川河川多目的広場での日本学生フライヤー連盟、主催の春の新生同好会勧誘の為の春のハンググライダー、パラグライダー体験会と説明交換会を組み合わせたいイベントでの支援を行いました。体験用ハンググライダーはエリアNASSAの方々に提供してもらい、パラグライダーはエアカッシーの文字さん開発の体験用に特化したシングルサーフェスのものを提供してもらいました。それぞれマントリーニングに最適な設定となっていて、風の状態も良く参加者全員（約60名）が各参加大学からのサークル活動部員の（約50名）協力もあり、空中への飛行を体験させる事ができました。

2015年8月1日、2日 東京都江東区有明そなエリア（東京臨海広域防災公園）にて東日本大震災復興支援熱気球イベントが熱気球運営機構の主催、日本航空協会共催で行われました。その際、日本航空協会から、航空スポーツ教室の一環としてパラグライダーの体験会協力の要請がJHFを通じて都連へ依頼があったので、今後、都心の都連イベント開催の可能性の調査も含め応じる事になりました。2日共天気にはめぐまれ、風の状態も海風が期待以上に入ってきた為、体験会として成立し、今後の都心の活動としてのポテンシャルはこの場所を借りることができれば可能である事を確認できました。

2016年2月7日 東京都江戸川区立二之江小学校校庭でのパラグライダー体験コーナー

日本航空協会から、航空スポーツ教室の一環として実施したいとの依頼が去年の実績からJHFへ協力要請があり都連として対応しました。場所的には海岸からはだいぶ内陸にあり、校庭は北側が4階の校舎で、東西に直線で60-70mがやっと取れるスペースであった。天気は晴れたが風向きが一定せず苦労したが、何とか体験希望者全員（50名程度）させる事ができました。

河川敷体験会レポート

2016年は4月9日と10日の2日間、茨城県足尾をホームエリアに活動している関東の大学が、多摩川河川敷にて新生を対象としたハンググライダー・パラグライダーの体験会を行いました。東京工業大学・立教大学・日本大学・早稲田大学・中央大学・東京理科大学・横浜国立大学・東洋大学・都市大学・慶応大学・筑波大学などから多くの学生が集まり、2日間で新生・上級生と合わせて計200名が参加しました。多摩川河川敷での体験会は今年で3回目になります。まずは都内で身近にハング・パラを体験してもらおうという主旨のもと、東京都連の皆さまのお力添えを得てこの体験会は始まりました。

1日目の午前中はとても風がよく、スムーズに体験を行うことが出来ました。しかし午後は風が強くなってしまい、パラグライダーの体験がなかなか思うようには進みませんでした。その一方ハンググライダーはよく飛ぶ。2日は弱風のなか行われました。この日もパラグライダーはなかなか浮かずに苦戦を強いられましたが、上級生が中心となってなんとか浮かせることが出来ました。この日もハンググライダーはよく飛ぶ。

体験会後には多摩川河川敷沿いの店で屋外BBQ（レセプション）を行いました。初めは大学ごとにかたまっていた話をしながら、徐々に打ちとけて大学関係なく交流する光景が見受けられました。レセプションは2時間ほどでとても楽しく終わりました。新生同士も仲良くなっていたので良かったと思います。

ここで、体験会に参加した新生と上級生のコメントを紹介したいと思います。

「実物の機体を見て感動しました。体験ではフワッと浮く感じにとってもテンションが上がりました。河川敷は平地でしたが、斜面で飛んだらどうなるのかとても興味がありました。他大学のひととたくさんコミュニケーションがとれてよかったです。（新生・女）」

「天気が良かったので風に乗って浮くと、とても気持ちよかったです。楽しかったです！（新生・女）」

都連レポート



「走っていくと足が地面から離れていき、自分が浮いている感覚を初めて感じる事が出来て面白かったです。山から飛びたいと思いました! (新入生・男)」

「良い天気のおかげで新入生をたくさん体験させてあげることが出来てよかった。体験会後のレセプションも盛り上がったのでよかった。(3年HG男)」

「下級生も積極的にサポートをしていたので、よく浮かせることが出来た。体験会後のレセプションも楽しかった。(2年PG女)」

新入生たちは皆、初めて空を飛ぶという感覚をとて楽しんでくれました。なかにはこの体験会を通して飛ぶとい

うことに魅力を感じ、すぐに入部を決めてくれた子もいます。今回の体験会は4月中、3週にわたって行われる体験会のうちの第一回目の体験会でした。残り2週の体験会はホームエリアである茨城県の足尾にて行います。4月9、10日に行われた今回の体験会は今年度最初の体験会だったので、新入生同様、上級生も少し緊張していました。新入生に楽しんでもらうには、パラ・ハングの魅力伝えるには、どのようにすればよいのか考えながら行われた体験会でした。空を飛ぶという楽しさは言葉では表現しつくせません。ハンググライダーやパラグライダーを知っている人は少ないので、このような体験会を開催することは大切だと思います。この体験会をきっかけに、空を飛ぶ楽しさを知るフライヤー仲間がひとりでも多く生まれてくれればと思います。

最後になりましたが、今年度も河川敷体験会にご協力いただいた東京都連の皆様、インストラクターの皆様、OB・学生スタッフの皆に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

東洋大学3年 藤村奈央

たまっパラ

二子玉川兵庫島公園を拠点にパラグライダーの体験やグラハン練習をしているたまっパラです。2014年春から始め、月1回から2回ほど開催しています。

手探り状態で始めましたが、回を重ねるごとに改良を加え、少しずつ良い環境が整いつつあります。

パラグライダーを紹介したいけど、山まで連れて行くのはちよつと大変。けど都内で出来たら紹介しやすいのでは? 「気軽に空を楽しめる」そんなコンセプトで始めました。高い場所から飛ぶわけではありませんが、ふんわり浮遊感を味わうだけでも楽しいもの。子どもから大人まで楽しめるちよこつとパラグライダー体験ができる。それがたまっパラです。

第13回たまっパラ・1月24日。予報は北北西の風が一日を通して強め。気温もさほど上がらず、太陽が出てい

るのがせめてもの救いでした。今回はモーターの方や初めての方々が訪れてくれました。日向でパラ談義をしながら風が弱まるまでお茶タイム。レギュラーメンバーが立ち上げ練習を始めましたが、突風が混ざる状況。たくさんの方が集まってくれましたが、危険なのでお昼前に撤収しました。

第14回たまっパラ・2月27日。午前中は風が弱め。南西から南の良い風で立ち上げ練習ができました。この日はレギュラーメンバーの友人がパラグライダー体験。イイ風に恵まれて、ふんわり体験ができました。午後2時過ぎ頃から予報通り風が強まり、早めの撤収となりました。

第15回たまっパラ・3月26日。南風の予報。この日は一日中を通して今までで一番良いコンディションでした。天候が良いと皆さん飛びに行ってしまうてあまり人が集まらないのが定番ですが、この日はたくさんの方が集まって、日暮れ近くまでたくさん練習ができました。暖かくなり始めたためなのか、一般の体験者が徐々に増え始めました。折角パラグライダーに興味を持って頂いているので、なるべく次に繋げるように近隣のスクールを紹介しています。実際にたまっパラへ来てくださる方以外でも、周りで見学していたりする人もいますので、少しずつでも体験やスクール入校する人が増えるといいなと考えています。

たまっパラ実行委員会 松原正幸

安全フライトセミナー

東京都連では2013年から安全フライトセミナーを開催しています。フライトテクニックを伝えるのではなく、安全にフライトするための考え方を共有することを目的としています。話題に応じてフライト技術に関する内容も扱います。質疑応答の時間を毎回設け、参加者の疑問等にもお答えしています。「パラグライダー」「ハンググライダー」といった枠にとらわれないで、広い視野で安全にフライトするための情報交換の場となることを目指しています。セミナー終了後は、講師を交えて簡単な交流の場を

都連レポート

設けています。パラを飛んでいる人はハングのことを知らなかったり、ハングの人はその逆だったりして、お互いに新鮮な情報交流の場となっています。事前の申し込みは必要ありません。気が向いたらふらりとお立ち寄りください。開催予定は都連のwebページ、およびFacebook等でご案内しています。



開催場所…東京都内（港区生涯学習センターばるーん、青山生涯学習館、他）
参加費…都連会員は無料、一般700円、学生300円
前回都連レポート発行以降（2015年5月）に開催したセミナーは以下の通りです。

六月 フライト時における判断／鈴木由路
七月 クロカンのススメ／松原正幸

八月 フライト気象学／野尻知里
十月 安全なテイクオフ・ランディング／鈴木由路
十二月 今年のおさらいと情報交換／鈴木由路
一月 競技における安全意識／鈴木由路

パラグライディング日本選手権

2015年の日本選手権は筑波にあるNASAで行われました。今年の日本選手権出場者は75人。うち1人はスロベニアの選手。日本一を目指し遠方から沢山の選手が集まりました。

10月9日・大会初日。西の強めの風。この日のタスクはアゲインストのターンポイントを取ったあと風下へ行く52.1キロのレースタスク。TOは時々強い西風が入るもののエリアの方の絶妙なサポートもあり全員が無事に空へ飛び立つ。リッジ風やサーマルを使って選手はそれぞれ良い位置を狙い上空待機。その後風上のスタートパイロンに向けて一斉にスタート。スタートを取ったあとは上げてから沖のパイロンへ向かう集団と上げずに向かう集団に分かれる。サーマルはそれほど活発ではないが上げずに向かった選手がタイミングもよく次に駒を進める。遅れた集団はターンポイント近くの山で上げるタイミングがずれたため少しスタック。この日のサーマルトップはそれほど高くなかったが丁寧にサーマルを使って2人がゴール。トップは酒井さん。

10月10日・大会2日目。この日の天気は曇り。雲底は山から+100mほど。それでも風はしっかり入りリッジが取れる。組まれたタスクは47.3キロ。晴れ間はなかなか来ず雲底も上がらない中選手達はリッジの良いポイントを狙ってひしめき合いながら飛行。なかなか上がらない状況からはじめにスタートを切りに行ったのはスロベニアのJost選手。次々にスタートを取りに行く。一つ目のパイロンは猿公園手前。しかし半数以上の選手がスタートパイロンは取ったものの折り返しタスクのほとんどがメインLDにランディング。数名が北方向に伸ばした距離は伸びなかった。

10月11日・大会3日目。朝から雨でキャンセル。選手は大会運営の方が用意してくださったバスに乗り清水漁港で美味しいものを食べ、その後温泉でゆったり。飛ぶ以外にも楽しく過ごせるよう配慮して頂き選手の交流も更に深まる。

10月12日・最終日。この日のタスクは75.4キロ。前日の雨が影響してかサーマルのタイミングが難しいコンディション。うまく波に乗れずに3本飛んだ選手も数名。渋い条件の中、はじめに上がった集団がその後のタイミングも良くゴール者6名。この条件でも確実にゴールしてくる選手たちはさすが！

今回の日本選手権は3本成立。この大会は天気にあまり恵まれない中サーマルを上げるテクニクとタイミングの読みが問われるシビアなものとなった。また国際交流も含め選手たちはこの大会を経て飛びについて色々な意見を交換し合うことができた。充実した大会となったことと思う。私の結果は総合28位、シリアル女子3位という結果だが自分の飛びについて色々振り返ることのできた大会になった。最後になりましたが、何日も前から準備をしてくださったスタッフやエリアの方々、実行委員の方々。細かなところまで色々と配慮して頂きたくさんの方のお陰で私たち選手は安全に楽しく参加することができました。本当にありがとうございました。

高田奈緒



ハンググライディング日本選手権

3月17日〜21日にかけて日本選手権が開催された。場所はホームエリアである茨城県板敷山エリア。ホームエリアと言っても空域が関東平野全域とはるかに大きいため、地元選手が断然有利かと言ったらそうでもない。大会



前の予報は「まともに飛べるのは初日だけ?」といったあまり良くない予報。それでも今年の勢いをそのまま成績に反映させるべく集中力を切らさないよう大会に臨む。

初日、北北西に50km行き、そこから北東に18km行く計68kmのタスク。スタート前のコンディションが難しくそこそこの位置でスタートを切り、強豪選手となかなか良いペースでコマを進めるも、コンディションの悪い空域に入ってしまう。もっと東よりコースを進んだ選手はサーマルが生きていたようで順調にコマを進めていった。大門さん板垣さんを筆頭にゴール者は6名。僕はトリッキーなコンディションでゴールできずも、感覚・機体と調子は上々なので気を落とさず翌日に備える。

二日目は強風にて競技中止。三日目は雨天にて競技中止。

四日目、筑波山ー加波山系を往復した後、北西に行つてから南西に20km行く計66kmのタスク。予報以上にコンディションが悪く、スタート前上げきれずにランディング。初日ゴールした大門さん板垣さんらも同じくランディングし、波乱の展開。二本目のフライト、サーマルが出るタイミングを見計らい「板敷のサーマルは僕が見つけてあげよう!」と意気込みテイクオフするも上げきれずにランディングしてしまう。僕のすぐ後に出た大門さん板垣さんたちは上げていったが、僕のテイクオフしたタイミングの判断は間違っていない。あくまでも調子は上々。攻めの姿勢での失点なので集中力を切らず最終日に備える。

この日はゴール者なし。ゴール手前500mまで飛んだ阿部貢造さんがトップ。

最終日、午前中が曇天で上がるコンディションにならないような雰囲気だったが、午後から晴れる見込みでターンポイントをとひとつ経由して北西に52km行くタスク。案の定日差しが差込み、今大会で一番良いコンディションになる。早めにテイクオフし良い位置でスタートを切る。4、5名の先頭集団の中、リスクを軽減しつつも攻めの姿勢も保ち、程よいペースでコマを進める。ゴールまで残り8km地点、元気とムタが高度やや低めで勝負をかける。僕は手前で小さいサーマルに乗ったおかげで高度が少し高かったこともあり、しつかり高度を稼いでからファイナルグライドに入る。先行する元気とムタよりも高度が高いのでゴール手前で追い抜くも大門さんに抜かれ、この日はゴールタイム1時間23分、2位982点。トップと3秒差。ちよつと悔しいが、自分の調子良さが成績に活かしたのでよしとしよう。悔しいけど・・・この日はゴール者30人と選手の50%がゴールするスピードレースとなった。優勝は圧巻の大門さん、準優勝は四日目のトップを取った貢造さん、3位は板垣さんという結果になった。

僕の総合成績は14位とイマイチだったが、最終日のポイントが大きく付き、国内ランキングが暫定1位となる! よつしや!!

鈴木由路



東京都在住のJHF会員へ

東京都ハングパラグライディング連盟へ加入ください。年会費は2000円です。日本選手権への推薦、教員、助教員への推薦は加入が必要条件となります。

添付の郵便振替用紙(振り込み料都連負担)に2000円と記入のうえ 氏名(フリガナ)、住所、生年月日、JHFフライヤー番号、ハング、パラの別 技能証、番号、電話番号、携帯電話番号、メールアドレス、郵便振替12015714670 東京都ハング・パラグライディング連盟 (添付の東京都ハングパラグライディング連盟の振り込み用紙はJHFへの振り込みには使用しないでください。)



東京都ハング・パラグライディング連盟事務局 鈴木康之

〒158-0003 世田谷区奥沢1-14-13

TEL/FAX: 03-3728-7765

携帯: 090-3204-4220

E-mail: tokyohpf@sentencha.com

Web: www.sentencha.com/~tokyohpf